

過程に流行予想色の時点が重なったとしても、わずかな反応しか示さない。

2) 決定係数は一部の系統をのぞいて、翌年2月では、全般に大となる傾向を示したことから、色彩の受容に関して嗜好過程と着用過程とが一致してきたことが判明した。これは心理的成長にかなり意味があると考えられる。

3) 決定係数・平均弾力性ともに大なる系統については翌年2月においても変わらない傾向を示した。したがって、若年層における需要予測を確定することができる。

B—5 色彩嗜好における受容変動の分析

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 色彩嗜好を分析するためには、最近、特に流行色の浸透が強いので、必然的に嗜好と流行との範囲を解明することが問題となるようである。演者は、この問題を解明するとともに嗜好の変動過程において、嗜好色と着用嗜好色とはどのような関連をもつかを明確にし、さらに需要予測の手段として平均弾力性をも求めて計量的な分析を試みた。

2. 本学家政科学生を対象として嗜好色と着用嗜好色とにつき経年的にパネル調査を実施した。この調査において、嗜好色と着用嗜好色との嗜好率の相関関係を明確にするために決定係数を用い、同時に着用嗜好色率の嗜好色率平均弾力性をも求めて検討を加えた。

3. 1) 色彩の受容には周期的現象が認められ、嗜好の上昇過程に流行予想色の時点が重なった場合、季節の影響を受けることなくその上昇率が目立ち、嗜好の低下